

大田区立大森第三小学校
学力向上を図るための全体計画

令和6年度
2024.8

おおた教育ビジョン

意欲をもって自ら学び、考え、
主体的に行動することも

学校の教育目標

○元 気 な 子 ○考 え る 子
○が ん ば る 子 ○や さ し い 子

保護者・地域

家庭・地域の実態
保護者・地域の期待や願い

学校経営方針(学力向上にかかわる要点)

～「分かる・できる・使える知識と技能」の育成～

○授業改善推進プランの実施を徹底し、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着と思考力・判断力・表現力を育成するアクティブ・ラーニングの充実を図る。

各教科の指導の重点

- 基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- 体験的・問題解決的な学習を重視するなど、学習指導方法の工夫・改善に努める。

基礎基本の定着

- ・朝学習・補習教室を週計画で位置付ける
- ・家庭学習の励行 ・音読は毎日の宿題

基本的な生活習慣の定着

- ・「大三小10のやくそく」学習規律の確立
- 低学年・中学年・高学年に応じたプランを作成し
プランの実行を月ごとに振り返る

道徳教育の指導の重点

- 良好な言語環境とコミュニケーションを目指した挨拶と言葉遣いの指導を図る。
- 規範意識の向上を図る教育と自他の人権を尊重する教育の充実を図る。

生活科、総合的な学習の時間等の指導の重点

- 「健康」をテーマにした単元の学習を充実させ、地域と連携した健康教育の指導を推進する。
- 様々な人との関わりを通して、地域への愛着心を育てる。
- 各学年の児童の興味・関心に基づいた課題解決能力を高める活動を展開する。
- 各学年とも、外国語活動に取り組み、コミュニケーション能力の育成を図る

本校の考える
「確かな学力」

- 学ぶ意欲
- 学習習慣の確立
- 課題解決力
- コミュニケーション能力
- 基礎学力の定着
- 生活にいかす力

特別活動の指導の重点

- 保健学習、学級指導において、自らの健康について考え、健康を保持増進する方法を学び、実践する力を育てる。
- 縦割り班による異学年交流、委員会活動やクラブ活動、さらに集会や朝会等の集団活動を通して個性の伸長を図りみんなでよりよい生活を築こうとする自主的・実践的態度の育成する。

生活指導の重点

- 全職員の共通理解で指導にのぞむ
- 基本的な生活習慣の徹底
- 規範意識の向上
- 人権を尊重する教育の充実
- 挨拶と言葉遣いの指導
- 安全意識の向上

本校の授業改善の視点

指導内容・方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
*課題解決学習や体験学習を重視し、児童の主体的な活動を引き出す指導法を工夫する。 *地域をいかした教材を用いたり、外部講師を招聘したりする授業を多く取り入れる。 *児童の習熟の程度や興味・関心等に応じた個別指導と少人数指導を推進する。 *各教科を通して、自分の思いや考えを深め、適切に表現する能力の育成を図る。 *生活にいかせる国語力の向上を図る。言葉や語彙の指導に重点を置く。	*授業時間を確保するとともに、朝学習の際にも基礎基本の定着、学ぶ意欲、表現力、思考力などを培う。 *読み聞かせ、読書活動を計画的に取り入れ、豊かな感性の育成や知識と読書習慣の定着を図る。 *週ごとの指導計画による計画的な指導の実施と時数確保に努める。 *放課後の補習教室を実施し、学力の定着を図る。	*地域の人材・病院等関係機関と連携を図りながら、持続可能な健康教育となるよう、指導計画を見直す。 *おおたの未来づくり科の研究実践校として、令和7年度からの完全実施に向けた授業づくりを行う。 *特別支援教育に関する研修を実施し、ユニバーサルデザインに基づいた授業設計を推進する。 *教育相談研修や校内指導体制の充実により、児童理解の深化を図り、学習支援能力の伸長を図る。	*学習指導要領を踏まえ、年間指導計画に基づく、評価規準・評価計画の改善・活用を図る。 *地域教育連絡協議会への、学校公開等の参観を通して外部評価を受け、改善にいかす。 *評価結果の公開や改善策について学校だよりやホームページ等で情報公開する。	*学校支援地域本部(スクールサポートおおさん)の協力を得て、地域の人材を活用した授業やわくわくスクールを推進する。 *基本的な生活習慣や家庭での過ごし方(生活リズム・家庭学習等)の定着のために、より密接に家庭や地域との連携を図る。 *区・PTA・地域行事等において児童の活動発表を積極的に推進する。 *保・幼・小・中の情報交換や交流活動を深める。

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・聞く力はおおむね身に付いている。
- ・物語を読み取る力がおおむね定着している。

(2) 課題

- ・説明文の文章構成の理解が不十分であり、読み取りや作文をやや困難にしている。
- ・主体的に学習に取り組む態度に課題がある児童の割合が大きく、知識・技能、思考力・判断力・表現力が高まらない要因の一つとなっている。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値より若干低い 区平均正答率より低い 全国平均正答率より低い		
第5学年	目標値より高い 区平均正答率より高い 全国平均正答率より高い	目標値より高い 区平均正答率より若干高い 全国平均正答率より高い (第4学年時)	
第6学年	目標値より低い 区平均正答率より低い 全国平均正答率より低い	目標値より若干高い 区平均正答率より低い 全国平均正答率より低い (第5学年時)	目標値よりやや高い 区平均正答率より低い 全国平均正答率より低い (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字のへんやつくりの理解はしているものの、漢字の読み書きが定着していない。 ・主語と述語との関係の理解が不十分である。	・話の内容を聞き取ること、物語の内容の読み取りはおおむねできている。 ・説明文では、段落ごとの内容を捉えること、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。 ・文章を書くことはおおむねできているが、調べたことを基に文を書く際に、内容の中心を明確にして文章の構成を考えること、指定された長さで文章を書くことができていない。	・目標値を満たす児童の割合が低い。 ・個人差が大きく、学級差も大きい。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 漢字の読み書きの力は定着している。 - 言葉に関する知識（修飾語や言葉の分類、漢字の由来に関するもの）を身に付ける必要がある。 - 情報と情報との関係を理解する力が定着している。	- 話合いの内容を聞き取る力は定着している。 - 物語の内容理解の力は定着しているが、6学年は、描写を基にして心情を読み取る点について課題がある。 - 説明文の内容理解の力は定着しているが、5学年は、段落相互の関係を捉える点については課題がある。 5学年は与えられた条件に沿って文章表現する力は身に付いているが、6学年は書く力を定着させる必要がある。	- 個人差が非常に大きい。 6学年は、全体的に数値が低い傾向がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 相手や目的に合わせて話すことができるように、必要な言葉を確認してから話す活動に取り組ませるようにする。 - 文章を書くときには、デジタル教科書や書画カメラなどのICT機器を活用し、書き方を分かりやすく指導する。 - 教科書の文を丁寧に読むことで、言葉や表現に着目させ、読み方の基本を身に付けさせる。	- 平仮名や漢字の学習で多くの言葉を取り上げて触れさせ、自分の力で文を考えて書くことを繰り返させる。 - 作文や文字の学習で、副教材「書くって楽しいね」を活用する。 - MIMを活用し、拗音や促音、撥音の表記や助詞の使い方の定着を図る。	「話す・聞く、書く、読む」の基本を丁寧に確認しながら、繰り返し指導をする。 - ペア等の少人数で活動させたり、教師の手本を示したりすることで自信をもって言語活動に取り組めるようにする。 - 司書教諭と連携して読書活動を行い、読書を楽しめる環境を整えることで、読書量を増やす。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 漢字の読み書きでは漢字指導、ミニテスト等を通して細やかに指導をする。 - 主語と述語について単元だけでなく、朝の「学びタイム」等でも副教材「書くって楽しいね」を活用して理解を確かなものとしていく。 - 日記を書く活動や作文の学習時に、文字数や段落構成を指定し、条件に合わせて文章を書く経験を積ませる。	- 説明文の学習では、段落ごとに小見出しを付けたり、要点をまとめたりして内容を捉えさせる。 - 中心となる語や文を見つけて要約していく活動を設定する。 - 文章を書く際には、文章構成図を作成し、構成を意識させる。 - 作文の学習や学期末などに、副教材「書くって楽しいね」を活用する。	- ペアワーク、グループワークを取り入れ、友達との交流の場を多く設定する。 - 書く学習では、身近な生活や空想の世界等を題材にした活動を取り入れ、書く意欲を高める。 - 司書教諭と協力して、単元で活用できる資料や本を集め、幅広い読書ができる環境を整える。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 教科書の「言葉」の学習で学んだことを、作文の時間に活用させ、繰り返し学ぶ時間を設定する。 - 教科書巻末の付録（言葉の宝箱等）を、授業で活用する機会を増やす。 - 作文の学習時だけでなく、他教科で学習感想等を書く機会も活用し、指定された段落構成で書く、段落構成を自分で考え、それに対応させながら書く活動を設定する。	- 説明文の読み取りや作文の学習で、文章全体の構成表に対応させながら読んだり書いたりさせる。 - 作文の学習や学期末などに、副教材「書くって楽しいね」を活用する。 - 物語を読む際、行動描写や情景描写を書き出して、心情を想像する学習経験を積む。友達の読みにも広く注目させ、想像したことの妥当性を高める。	- 学習内容と生活との関連付けを行うことで抽象的な事柄を具体的な事柄に変換し、学習を身近に感じられるようにする。 - 自分の課題や学習の達成状況を可視化するなどして、意欲的に目標をもって取り組めるようにする。 - 既習事項を活用する場面ではゲーム性の要素を取り入れるなどし、活用する楽しさを感じられるような工夫を行う。 - 司書教諭と連携して様々なジャンルの本を紹介し、すすんで読書をする環境を整える。

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・グラフや資料の読視聴覚教材を用いて考察する時間を確保することにより、それぞれの資料を個別に読み取る力は定着してきている。
- ・ICT機器を用いて調べ学習や表現活動を行うことで、社会科に対する意欲・関心を維持し、学習内容の理解をすすめることができた。

(2) 課題

- ・資料の内容を正しく読み取り、複数の資料を比較したり、関連付けたりして資料を総合的に読み取る力が低い。(昨年度より継続)
- ・社会に関する用語・語句を正しく理解していないため、具体的知識を理解したり、考えたことや選択・判断したことを表現したりする力が乏しく、主体的に学習に取り組む態度が育っていない。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値よりも低い。 全国平均正答率よりも低い。 区平均正答率よりも低い。		
第5学年	目標値よりも高い。 全国平均正答率よりも高い。 区平均正答率よりも高い。	目標値よりも低い。 全国平均正答率よりも低い。 区平均正答率よりも低い。 (第4学年時)	
第6学年	目標値よりも低い。 全国平均正答率よりも低い。 区平均正答率よりも低い。	目標値と同等程度。 全国平均正答率と同等程度。 区平均正答率よりも低い。 (第5学年時)	目標値よりも低い。 全国平均正答率よりも低い。 区平均正答率よりも低い (第4学年時)

(2) 分析(観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値よりも低い。 ・記号や用語等の基礎的な知識が身に付いていないことが、資料を正しく読み取れない要因となっている。 ・各単元でおさえるべき知識の習得を確実にする必要がある。	・目標値よりも低い。 ・社会的な事象に着目して、調べたことを比較・分類、または関連付けて考えたり、考えたことを言葉で表現したりすることができないことが要因となっている。	・目標値よりも低い。 ・社会科の学習に対して意欲をもって取り組んでいる児童が多い。 ・資料やグラフの数値が正しく読み取れず、それぞれの関連性を見出すことが出来なかったことが、正答率が上がらない要因と考えられる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・学年間に差がある。 ・5年は目標値を上回り、おおむね良好である。 ・6年は目標値を下回っている。資料を正しく読み取る力が十分に育っていないことと、用語についても未定着の傾向がある。	・5年は目標値を上回り、おおむね良好である。 ・6年は目標値を下回っている。適切な資料を選択する、資料をもとに判断する問題についての正答率が低い。 ・用語や社会的事象について説明する記述問題の回答率も低い。 ・資料を多面的、多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する力を付ける必要がある。	・5年は目標値を上回り、おおむね良好である。 ・6年は目標値を下回っている。社会的事象に興味をもったり、自分の生活とのつながりを考えさせたりすることで、学んだことを活用する力を高め、日頃から社会科に親しむ態度を養う必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地図帳やフラッシュカード、ICT等を活用して、地図記号や方位（四方位、八方位）、23区や47都道府県名を繰り返し指導して、知識の定着を図る。 ・調べ学習では、教科書だけでなく、副読本などと比較しながら資料の活用の仕方を繰り返し指導し、資料活用 of 技能を向上させる。	・学習問題に対する自分の考えや資料から読み取ったことなどを自分の言葉で表現できるようにしていく。そのために、個人で考える時間を十分に確保した後、集団で話し合い学び合うといった学習形態を意図的に取り入れ、思考力を養う。 ・学習感想を毎時間書かせ、分かったことだけでなく、疑問点にも着目し、次の学習につながるようにする。	・ICTを活用し、資料提示を工夫する。体験的な活動を取り入れ、児童が意欲をもって学習に取り組めるようにする。 ・自分事として捉え、自分たちには何ができるのかを選択・判断することを通して、主体的に関わっていく態度を養う。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・資料の見方をおさえ、そこから分かることを全体で共有する時間を確保する。 ・学習内容の定着を図れるよう、繰り返しワークシートに取り組んだり、他教科や身近な出来事と関連付けたりして理解できるように授業を工夫する。	・資料における数値の変化や、他の資料との違いなどに着目し、自分の考えをまとめることができるように、適切な発問と指示を適宜行う。 ・社会科用語や単元の重要語句の意味を理解しながら使い、自分の言葉でまとめる活動を取り入れる。	・ICTを活用し、生活と関連付けて児童に身近な問題として捉えられるようにする。 ・児童に疑問をもたせ、興味を引き出しながら学習問題をつくる。 ・協働的な学習を取り入れる。

令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・4、5年生は正答率が目標値、全国平均、区平均正答率を上回り、基本的な内容が定着している。また、問題の内容別に見ても、半分以上が目標値を上回っている。4年生は、昨年度3クラス5展開で学習をすすめられた成果が現れている。基礎問題だけでなく、活用問題の正答率も目標値を上回っている。
- ・家庭学習や授業中にタブレットドリル等で復習を行うことで、学力の定着につなげることができて
- いる。

(2) 課題

- ・4年生は、「数と計算」の領域で区の平均正答率をやや下回る。
- ・6年生は、どの領域も目標値を下回り、基礎的な内容の定着が不十分である。
- ・文章を読み取れなかったり見落とししたりしてしまい、問題を正しく把握することに課題がある。
- ・どの学年も測定、変化と関係の領域の正答率に課題があり、量感をつかませるなど、生活に生かした学習が必要である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い		
第5学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い (第4学年時)	
第6学年	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い (第5学年時)	目標値よりも低い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 目標値よりも全体的に高い結果となったが、小数の相対的な大きさについての理解や数直線上の分数の読み取りが目標値を下回った。 ・ 四則演算に関しては目標値を大きく上回る結果となった。	・ 目標値よりも全体的にやや高い結果となった。 ・ □を使った式の文章問題を表した図の構造を正しく捉えたり乗法の式に表したりすることがよくできている。 ・ かけ算の暗算の仕方の説明は全国の正答率や目標値を大きく上回った。	・ 目標値よりも全体的にやや高い結果となった。 ・ 基礎的な問題の正答率は比較的良い。量感を養ったり、比べたり活用したりする経験を取り入れ、応用力を伸ばす必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 目標値に対し、5年は上回り、6年は下回る結果となった。 6年は、特に「小数の計算」の正答率が低いため、基礎的な問題から、計算を復習する時間をとる必要がある。	- 目標値に対し、5年が上回り、6年が大きく下回る結果となった。 5年の結果はおおむね良好で、特に「面積」の正答率が全国の正答率と比べてもよくできている。 6年は「比例・単位量あたりの大きさ」の正答率が目標値を上回った。問題場面の把握に数直線を活用し、生かすことができている。	- 目標値に対し、5年がやや上回り、6年が下回る結果となった。 - 与えられた図や文章から式を組み立てたり、理由を説明したりする問題の正答率が低い。 - 問題の解決に向けて、既習の学習内容を振り返り、見通しをもたせて取り組ませたり、日常生活と関連付けさせたりする必要がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 dL、1 cm がどれくらいなのかなどを、具体物を操作して確かめる機会をもつ。その際、できる限り実生活と結び付けることで、数量に関するイメージをもたせ、理解につなげられる指導を行う。 - 基礎となる繰り上がりのたし算の筆算、繰り下がりのひき算の筆算、かけ算九九の練習を繰り返し行い、定着させる。	- 文章の読み取りが苦手で文章問題の立式が難しい児童には、問われている箇所に線を引いたり、図をかいたりしてから式を立てるようにする。 - 筆算の仕方などについて、形式的な手続きの理解に偏らないよう、ブロックなどの具体物を活用して思考力を深める。	発問時におけるデジタル教科書の活用や、算数的な活動を計画し、具体物を用いて学習を進めるなど、児童の興味・関心を高める工夫を凝らした授業展開を行う。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 九九の定着が不十分で、わり算などにつまずき、苦手意識をもっている児童がいる。宿題などを通して、九九を含めた計算の反復練習をしていくことで定着を図る。 - 相対的な数の大きさに関しては、実生活と結び付けて相対的な量感を養う活動を取り入れる。	- 問題解決の場面を多く設定することで、問題把握の力を養う。数直線を活用し、問題を把握する力を養い、立式にかせるようにする。 - グラフや数直線の読み取りに関しては、めもりがどのように分けられているかを丁寧に読み取り、数の読み間違いを減らしていく。	- 既習事項の確認を通して自力解決に向けての筋道を立て、自分で問題解決ができたという達成感をもたせる。 - 单元ごとに学んだことを活用して、応用問題を解いたり、解いた問題を児童の言葉で説明させたりする場をつくり、自分に合った取り組み方を選ばせる。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・「分数」の指導においては、真分数＋真分数における通分の仕方について、分母同士を掛けたり、片方の分母にそろえたりする（6年）など、より確かな理解と定着を図る。 ・図を使って小数の乗法の文章問題に合った式を立式したりする（6年）など、より確かな理解と定着を図る。 ・「億と兆・がい数の表し方」は、命数法で書かれた数を記数法で表す問題の正答率が低いため（5年）、位取り表を使って繰り返し問題を解くことで、より確かな理解と定着を図る。 ・「割合」は、人数の割合を求める計算の正答率が低いため、数直線や図で表す指導を徹底することで問題場面を把握し、正しい立式をする力を養う。	・「多角形と円・合同」では、実際に具体物を操作して、図形をイメージする力や正多角形の性質の理解につなげる。 ・「割合」「平均」などは、日常生活の中で積極的に活用していくことで、見方や考え方を育てる。	・調べたり比べたりする活動を増やすとともに、常に見当を付けたり予想を立てたりしてから取り組むことで、豊かな量感を育て、関心・意欲を高めるようにする。 ・「割合」「平均」などの授業では、日常のデータや他教科の資料などを教材として活用することで、自らの生活と関連させながら学んでいく姿勢を育てていく。 ・既習事項の確認を通して、自力解決に向けての筋道を立て、自分で問題解決ができたという達成感をもたせる。 ・基礎的な作図や折れ線グラフの読み取りができていることから、単元全体の内容をまんべんなく抑え、活用できる場をつくる。

令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・知識や技能の定着を図るために、観察や実験を丁寧に行ったことで、基礎的な問題の正答率が高くなった学年がある。
- ・タブレット端末や動画教材を使って振り返りを行うことで、知識の定着を図ることができた。

(2) 課題

- ・観察や実験を行うことが比較的難しい自然現象について、知識・技能の定着が不十分である。
- ・活用的な内容で平均正答率が低く、身に付けた知識を生活と関連付けて考え、活用する力が不十分である。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	目標値よりも低い 全国平均正答率より低い 区平均正答率より低い		
第5学年	目標値より低い 全国平均正答率より低い 区平均正答率より高い	目標値よりも低い 全国平均正答率より低い 区平均正答率より高い (第4学年時)	
第6学年	目標値より低い 全国平均正答率より低い 区平均値より低い	目標値より低い 全国平均正答率より低い 区平均正答率より低い (第5学年時)	目標値よりも低い 全国平均正答率より低い 区平均正答率より低い (第4学年時)

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・全体的に目標値や全国正答率を下回っている。 ・「植物の育ち方」、「こん虫のからだのつくり」、「太陽と地面のようす」、「物の重さ」の基礎的な問題の正答率が、目標値や全国正答率を下回っている。	・全体的に目標値や全国正答率を下回っている。特に「植物の育ち方」、「じしゃくのせいしつ」の思考を働かせる問題の正答率が低い。 ・学んだことを身近な日常生活に広げ、適用して考えられるように指導を工夫する必要がある。	・実験の方法や結果から推測したり、事象と事象の関係から推測したりする問題の正答率が目標値や全国正答率より低くなっている。 ・学んだことを活用して問題に取り組んだり、日常生活と関連付けて考えたりする必要がある。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 5年は「自然の中の水」の正答率が、目標値よりやや下回っている。 ・ 6年は「植物の花のつくりと実」、「物のとけ方」の正答率が目標値よりも下回っている。	・ 5年は「自然の中の水」と「雨水のゆくえと地面のようす」の正答率が低くなっている。 ・ 6年は「植物の花のつくりと実」、「物のとけ方」の正答率が低くなっている。	・ 実験や観察に、興味・関心をもって取り組んでいる。 ・ 粘り強く問題を解決しようとする力や学んだことを自然の事物、現象や日常生活に当てはめてみようとする力が不十分である。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 実験や観察を行う前に、方法や注意点についてしっかりと指導し、知識を確実に定着させる必要がある。 ・ 重要語句や資料を掲示し、触れる機会を多くすることで定着を図る。 ・ 実験の過程から得られた結果を「どのように記録すると結果が分かりやすくなるか」を考えさせながら、学習に合わせて表やグラフ、図などを適切に用いて記録できるよう指導する。	・ 理科の見方や考え方を働かせるように、「どのように物事を捉えさせるか」という主な視点や考え方を提示する。 ・ イメージ図を書かせるなど、考察を重要視し、思考力を養えるようにする。 ・ 学習したことを他の似た事象にも応用できるよう、既習事項との関連を考える機会を設ける。 ・ 導入では、児童が問題意識をしっかりともてるようにし、その際のイメージや概念などを、結論と意味付けたり関係付けたりする。	・ 児童がもつ、自然現象に対する疑問を基に問題作りを行うなど、学習の展開を工夫する。また、単元の導入などでは適切な資料を掲示する。 ・ 体験的な活動を取り入れることで実感を伴った理解を図り、学習内容と日常生活のつながりを考えられるような場面を設定する。 ・ 児童の身の回りや実生活と自然事物・現象を結び付けられるような例示を行う。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 自然の不思議さや面白さを知ることができるように、実験や観察などの体験活動を充実させ、知識、技能の定着を図る。 ・ 重要語句や資料を掲示し、定着を図る。 ・ 観察、実験の機会や時間を十分に確保する。また、動画など資料を用いて実験器具の安全かつ適切に扱う技能を習得させる。 ・ 単元末に内容全体の内容をまとめ、整理し、知識・技能の定着を図る。	・ 生活との関連を図るため、教科書に掲載されている QR コードや写真を活用して具体的な場면을提示し、予想、計画を立てられるようにする。 ・ 実験の結果と、結果から分かることや考えられることから考察できるよう指導する。また、結果から分かったことと既習事項の学習内容や日常生活の事象と関連付けて考えたことを記述させ、理解を深めさせる。	・ 単元の導入時に、児童が自然の事物や事象と関われるような工夫を取り入れ、意欲を引き出す。 ・ 実験や観察の時間を十分に確保し、体験を重視した内容や学習を展開する。 ・ 学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。

令和6年度 外国語 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1. 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・「単語や表現の意味理解」の項目は正答率が高く、食べ物や遊び、文房具などの単語の読み方や意味を理解している。
- ・「日常会話の理解」の項目も正答率が高く、名前のスペル、誕生日や趣味を理解することができている。
- ・「会話全体の理解」も全体的に正答率が上がり、対話の目的や場面、状況などを推測して、概要をとらえることができている。
- ・英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童が増えた。
- ・既習表現を使って自分の考えや気持ちを伝えようとする児童が増えた。

(2) 課題

- ・アルファベットの音声を聞き、活字体の小文字や大文字を正しく書く力が足りない文字がある。
- ・聞いたり話したりすることは得意だが、書くことに抵抗のある児童が多い。

2. 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第6学年	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも低い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも高い 区平均正答率よりも高い	目標値よりも高い 全国平均正答率よりも低い 区平均正答率よりも高い

(2) 分析（観点別）

① 6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・知識・技能は目標値を上回っている。 ・アルファベットの大文字や小文字を書くことの正答率が低い傾向にある。 ・単語や会話の意味を理解したり推測したりすることはおおむねできている。	・目標値を上回っている。 ・例文を参考にしながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて作文をする力が低い。	・目標値を下回っている。 ・例文を参考にしながら基本的な表現を用いて書くことに取り組む力が低い。 ・無回答がやや目立つ。

3. 授業改善のポイント（観点別）

高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・アルファベットの音声に十分に慣れ親しませ、音と文字を結び付けられるようにする。 ・身近で簡単な語や表現を理解できるよう、十分に音声を聞かせ定着を図った上で、音と文字を結び付けて「書くこと」を指導していく。 ・チャンツ等を使い、リズムに合わせて単語を覚える練習を繰り返す。	・デジタル教科書や絵カードを活用し、外国語講師による発声を繰り返し聞くなど、十分に聞く活動を行う。 ・学習した言葉や表現を十分に理解した上で、活用できるように、外国語講師や友達とやり取りする場面を設定し、表現する力を高められるようにする。	・児童が聞いてみたい、言ってみたいと思えるような必然性のある目的や場面を引き続き設定する。 ・音声や視覚教材を有効に活用し、児童の興味・関心を高められるようにする。 ・例文を参考にした英作文を繰り返し行い、自信がもてるようにする。

令和6年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・身近な植物を育てたり動物と触れ合ったりする活動を通して、生き物への関心が高まり、命を大切にすることが芽生えた。校庭の周辺の花壇や裏庭、畑等の環境をいかして、草花遊びや虫の観察、草花、野菜を育てるなどの活動ができた。
- ・友達や教職員、学校や地域を支えている人々と触れ合う機会、1・2年の交流の場の設定、夏休みや冬休み等を利用した家庭での手伝い等の活動を充実させたことで、自分達は多くの人に支えられていること、家族や学校の一員であること、自分の成長など気づきが増えた。

(2) 課題

- ・意欲や自信をもって生活を豊かにしたりしようとすることを繰り返し、児童の気づきや思考を共有し、深める授業展開が必要である。

2 授業改善のポイント（観点別）

低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くことができるよう、気づきの発達段階を教師が理解して適切な発問や価値付けをする。また、一人一人の気づきを関連付けて共有化を図る。 ・生活上必要な習慣や技能を身に付けることができるよう、指導内容の明確化及び学習活動を工夫する。	・身近な人々、社会及び自然を自分との関わりにおいて見付ける、比べる、例えるなど視点をもって捉え、表現できるようにする。 ・作品を掲示したり、発表の場を設けたりして、自分の表現にいかしたり、互いに相手のよさを認めたりできるようにする。 ・自分で選択する活動を取り入れ、思考・判断・表現する過程を大切にする。	・実物や関連図書の紹介、教室掲示をするなど、植物や生き物などが自然と目に触れるようにし、「やってみたい」と思うような環境づくりをする。 ・様々な人々との関わりを大切にした活動を行い、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぶことができるようにする。

令和6年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・めあてを明確にし、毎時間児童が学習を振り返ることで、意欲の向上につながった。
- ・常時活動で技能の指導を進めたことで、技能の定着につながり、演奏活動に自信をもつことのできる児童が増えた。
- ・歌唱表現の工夫を考える活動や、鑑賞、音楽づくりの活動を充実させたことで、思考力が高まった。

(2) 課題

- ・毎時間のめあては明確にできたが、題材を通しての学習の見通しはもてていない。
- ・技能の個人差があり、技能が高い児童への対応が不足している。
- ・意見の共有や表現的な活動の場面で、学習用タブレットを効果的に活用できていない。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・演奏するときの姿勢や、鍵盤ハーモニカの運指、タンギングなど、一つずつ丁寧に指導する。一人ずつ演奏する場面も必要に応じて設定する。	・音の高さや楽器の音色、大きさのちがいなど、感じ取るめあてを分かりやすくし、発問を工夫する。	・音当てやリズム打ち、身体を動かす活動を取り入れることで、音楽を楽しみ、興味・関心をもてるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・常時活動で、よい姿勢や発声等、基本的な技能に必要なポイントを分かりやすく指導していく。 ・技能の習得は、スモールステップ方式で進め、技能に合わせて課題を選択できるように準備する。	・自分の考えをもてるように、思考に必要な音楽の要素を表す言葉や、交流のときに必要な話型の例を提示するなど、言語活動の充実を図る。	・前時の振り返りを交えながら、学習を進めることで、意欲の向上や継続を図る。 ・子供自身の振り返り活動を充実させ、次の学習につながる評価や助言を行う。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・常時活動やワークシートを通して、拍の流れやリズム、フレーズ、強弱記号など基礎的な知識の定着を図る。 ・姿勢や発声等の技能の習得に必要なポイントを継続して指導する。 ・個の進度に合わせた学習の充実を図るため、ICTを活用する。	・タブレットを効果的に取り入れながら、個人やペア、グループの考えを共有し、いろいろな考えのよさを確かめ合っていく。 ・感性を働かせ、他者と協働しながらよりよい表現を生み出したり、工夫したりする場面を設定する。	・毎時間のめあてを明確にするだけでなく、題材を通して学習の流れを示し、前時の学習を振り返りながら、学習の見通しをもてるように工夫する。 ・児童一人一人の演奏や発言に対して、積極的に評価や価値付けをし、助言をきめ細やかに行う。

令和6年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・造形活動の取組は意欲的であり、伸び伸びと楽しみながら取り組む児童が多い。
- ・友達と一緒に関わり合ったり、道具を安全に留意しながら活動したりする経験を積むことで、様々な材料に出会い積極的に自分の色、形、イメージを表現できる児童が増えた。

(2) 課題

- ・造形活動時に、必要な持ち物がそろわないことがある。材料や道具の事前連絡をしておき、材料や道具の整備をして児童が活動しやすい環境を整える。
- ・今までの学習した経験を積み、いろいろな表し方や材料による感じ方の違いなどを知り得ていく必要がある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れることができるよう、学習活動や指導の順序などを工夫する。 ・並べたり、つなげたり、積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくったり表したりすることができるようにする。	・形や色などを基に、自分たちのイメージをもちながら、身近な自然物や人工の材料の形や色などを基に造形的な活動を行ったり、感じたこと、想像したことから、表したいことを見付けたりできるように、児童の発想の広がりや場の設定、学習活動を工夫する。	・多様な材料、用具に触れさせたり、児童が関心をもちやすい題材を設定したりする中で、児童が楽しみながら主体的に活動に取り組むことができるように ICT 端末を使って作品例を見たり、実演を交えたりする。 ・自分たちの作品を見合う活動を通して、よさや面白さを感じ取ることができるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・児童が思いや願いを大切に、取り組みやすい材料や用具を準備する。 ・児童が材料や用具をすすんで使い、知識や技能を深めながら、表現を工夫できるようにする。	・様々な材料や表現方法と出会い、豊かな発想をしながら、思考力・判断力を深める。 ・形や色などの感じを基に、自分のイメージをもって表すことができるよう、児童の発想の広がりに対応する。	・様々な材料や用具の体験を行い、さらに楽しんで主体的に活動できるように ICT 端末を使って作品例を見たり、実演を交えたりする。 ・作品を作る過程で、自然と友達の作品や身近な美術作品を鑑賞し、よさや面白さを感じ取る場を大切にする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・児童が自分の表したいことに合わせて、使いたい材料や必要な用具の特徴を生かせるように授業の準備をする。 ・前学年までの経験をいかしながら、さらに知識、技能を高め、工夫して表せるように環境を整える。	・形や色などの造形的な特徴を基に、児童が自分のイメージをもてるように、様々なテーマや表現方法、材料などを準備していく。 ・児童が思考力・判断力を深められるように、場の設定や支援の方法などを工夫する。	・児童がこだわりをもって自分の表現ができるように題材の設定の工夫や材料、用具の準備をして無理のない授業計画を立てる。 ・それまでの造形活動の体験をいかしながら、自分の見方や感じ方を大切にし、さらに自分らしい表現を主体的にできるように ICT 端末を使って作品例を見たり、実演を加えたりする。 ・自分たちの作品や親しみのある作品などに出会い、よさや美しさに気づき、感じ取れるようにする。

令和6年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・日常でのこども達自身の生活課題を振り返ることで、興味をもって主体的に学習に取り組めるようになった。
- ・既習事項の反復練習を行ったことで、技能習得率が向上した。
- ・ICTを活用し映像資料を多く見せることで、課題解決に励む児童が増加した。

(2) 課題

- ・生活経験に差があるため、学習内容の定着にかかる時間に差があった。
- ・布を用いた製作において、作業にかかる時間の差が大きい。

2 授業改善のポイント（観点別）

高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・家庭科用語の定着を図るため、用語の確認を丁寧に行う。用語だけでなく、写真資料を照らし合わせることで更なる定着を図る。 ・既習事項の反復練習や担任・保護者ボランティアによる個別指導を通して、基本的な知識の定着と技能の向上を図る。	・ICTを活用し、他の児童の作品を見合うことで多様な考えや工夫に触れさせ、思考力を高める。 ・製作準備として、紙や布で模型を作ることで完成品を想像し、学習計画を立てやすくする。	・児童の普段の生活から問題意識をもたせ、課題解決に向けた学習を計画する。 ・電子黒板を活用して指示・内容を明確にし、意欲の継続を図る。 ・映像や動画を見せることで、学習内容の汎用性を児童に伝え、実生活の中で活用できることに気付かせる。

令和6年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立大森第三小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・自己の課題を理解して運動に取り組むことで、運動に対する意識や取り組む姿勢の向上が見られた。
- ・SUN3 タイムや休み時間に短縄跳びや長縄跳びをする時間を設けたことで、意欲的に縄跳びに取り組む児童が増えた。
- ・体育の授業を中心に持久力を高める運動を取り入れてきた結果、持久力の向上がみられた。

(2) 課題

- ・日常の運動経験の差が、体育での技能差につながっている。自己の課題に気付くことが難しい。
- ・身のこなし方に課題がある。体育の授業を中心に敏捷性を高める運動を取り入れていく必要がある。
- ・体力テストの得点に個人差が見られ、学年が上がるにつれ、顕著に表れる傾向にある。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各領域の遊びの特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に行えるようにする。 ・準備運動の中に、リズム遊びや鬼遊びなどを取り入れ、楽しみながら、身のこなし方や持久力、様々な運動感覚を養う。 ・体育朝会やSUN3 タイムと連携して授業を行う。 ・基本的な動きが身に付くようICTを使って確認することで、動き方の視覚的な理解を促す。	・運動の特性に応じた技能を身に付けるために、場や練習方法を考える時間を設定する。 ・運動遊びを工夫できるように、楽しみ方を教師から提案する。 ・自分や友達が考えた楽しみ方を共有し、自分に合った楽しみ方を選択できるように場を設定する。	・単元の導入では、これから学習していく内容の概要が視覚的に分かるような学習資料を用意する。 ・簡単なゲームや遊びを導入時に取り入れ、楽しみながら学習を進められるような授業を展開する。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各領域の運動の特性に応じ用具器具の使い方やルールを知り、安全に行えるようにする。 ・準備運動の中に、体ほぐしの運動、多様な動きをつくる運動を取り入れ、身のこなし方をはじめ、様々な運動感覚を養う。 ・体育朝会やSUN3 タイムと連携して、鬼遊びやゲームを行う。 ・ICTを用いる事で、グループで動き方の確認をし、教え合いながら技能を身に付けられるよう指導する。	・自己の運動の課題を見付けさせるために、自己の能力の課題に適した運動課題を見付けられる場を細かく設定をする。 ・課題解決の方法や活動を工夫させるために、教師が工夫の例を提示したり、友達の提案を広める時間を設定したりする。 ・ICTのカメラ等を用いて、自己の課題に気付き、課題解決に向けた手だてとする。	・単元の導入では、これから学習していく内容の概要が視覚的に分かるように資料を用意し、児童の関心が高まるような手だてとする。 ・友達とペアやグループを組むことで意欲的に取り組み、きまりを守って、誰とでも仲よく運動をしようとする意欲を高める。 ・友達同士で認め合える環境や場を設ける。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・各領域の運動の特性に応じた用具や器具の使い方やルールを知り、安全に運動が行えるようにする。 ・準備運動の中に補助運動を取り入れ、年間を通して様々な運動感覚を養う。 ・体育朝会や SUN3 タイムと連携して、鬼遊びやボール運動を行う。 ・ICT を用いることで、正しい動き方を理解し、技能を身に付けられるよう指導する。	・自分やグループの課題に沿って練習の場、技術を確認する時間を設定する。 ・課題解決の方法や活動を工夫させるために、教師が工夫の例を提示したり、友達の提案を広める時間を設定したりする。 ・自分やグループの特徴に応じた動き方を知り、その特徴に応じた取組方や作戦等を考えるようにする。	・単元の導入では、これから学習していく内容の概要が見えるような学習資料を用意する。 ・毎時間、自分のめあてを設定し、見通しをもって学習活動に取り組めるようにする。 ・自分事として考えることができるような学習活動を行う。 ・2 友達同士で認め合い、アドバイスを合える環境を作り、課題をもって取り組めるようにする。